

1 はじめに一実習前の意気込み

中学生の頃から教員という仕事に興味を持っており、高校生で英語教師になることを将来の夢として決めた。そのため、大学生になってからは、自分の理想と思う教員とは何かを常に考え、それに近づくための努力を思いつく限りしてきた。自身の英語力を上げるため資格試験の勉強を毎日欠かさずし、教育現場を知るために様々な学校への授業見学の依頼やインターンシップ等も行った。また、英語を实际使う体験をするため、海外留学や国際インターンシップ、ボランティアなどにも積極的に取り組んだ。そして今回、教育実習生という形ではあるが、一教師として生徒の前に立つことができたことを嬉しく思い、実習をしていくにつれ、教員の志望度が高まっていくのを感じた。

2 授業に関して一授業における2つのポイント

学校インターンシップで私立高校にて半年間、補講授業をしていたこともあり、生徒を前にし、教壇に立つことに抵抗がなく、緊張することなく授業に集中できた。授業に関して実習が始まる前から決めていたことが2つある。1つ目は音読の大切さ、効果を伝えるということで、授業では音読を中心とした授業展開を心がけた。初めは教科書を用いて音読をしていたが、生徒の反応は良くなかったように思える。そこで、音読用プリントを作成し、ペーパーワークとして音読を試してみたところ、生徒からも楽しく本文を丸々覚えることができた。授業後アンケートで評価してくれる声が多かった。2つ目はICT技術を少しでも使うということで、タブレットPCをモニターに繋ぐという手法を用いた。これに関しては、指導教諭であったM先生もされており、生徒からしても慣れていたようであった。ICT技術はこれからさらに学校教育に導入することが予想されるため、今のうちから効果的な使用方法を考えていきたいと思う。

授業の改善点としては、自分の授業は理解、習熟、応用・発展のうちの理解段階で留まる授業をしていたように思える。実習途中で、音読方法を変え、生徒が主体的に本文を考えながら覚えていくようにしたが、毎回の授業で同じ音読方法を続けると生徒が飽きてしまう恐れを感じた。今回は2週間の授業期間であったが、1年間続けることを考えると、授業方法をいくつかネタとして持っておき、生徒の反応を見ながら授業が淡白なものにならないような仕掛けが大切であると感じた。この教育実習で感じたことは、授業で生徒にどうなってほしいかという狙いや授業目標を考え、そこから逆算させた授業展開をしていくことがとても大切なことであると学んだ。

3 生徒との触れ合いに関して一早期に生徒を覚える

はじめは生徒と上手くコミュニケーションを取れるか不安であったが、すぐに話しかけてくれ、受け答えをしてくれ、早くから打ち解けあうことができた。実習開始前から最終日に担当クラスの生徒全員にメッセージカードを渡すということを決めていた。生徒一人ずつにコメントを書くため、生徒全員の名前と顔を早くから覚え、なるべく生徒と触れ合う機会を増やすことを心がけた。実習初めの1週間で担当クラスの生徒の名前と顔を覚えることを目標としていたが、昼休みや放課後も生徒と話す機会が作れ、すぐに覚えることができた。

た。生徒のことをいち早く覚えることができたことによって、授業でのやり取りや、教育実習全体にも良い影響をもたらしたのではないかと思う。

4 さいごに一まとめと今後について

この3週間の教育実習は本当に有意義なもので、これからの人生に大きな影響を与えうる経験になった。今まで、教員志望として様々な努力をしてきたつもりであるが、本職の先生方に比べると授業力もないし、足りない部分や改善点が多くあるのを感じた。これからまたさらに、理想的な教員像に近づくためにもこの経験を存分に活かし、残りの学生生活、これからの社会人としての生活を過ごしていきたい。